

株価は売買したい人の バランスで決まる

POINT > 株価を決める最大の要因は「会社の業績」

株主はさまざまな会社の権利を与えられる

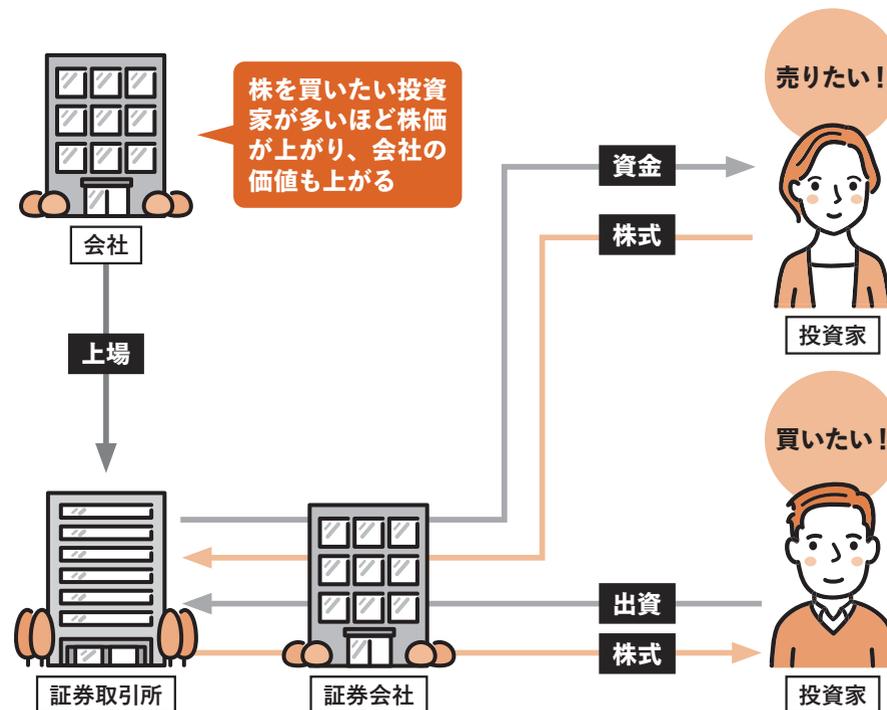
株式とは、株式会社の出資者（株主）に対して発行される証券のことです。株主は出資するかわりに、その会社の経営参加権や配当権など、さまざまな権利が与えられます。株式は売買することもでき、株主の地位と権利もその買い主に移ります。こうした権利や売買利益を得る目的でなされる取引が株式投資です。

株の値動きは買売したい人のバランスで決まる

株式は証券取引所を通じて売買されますが、このときの取引価格は「売りたい人」と「買いたい人」の受給バランスによって変動します。一般的に株を買いたい人が多ければ高く、売りたい人が多ければ安くなります。

株価変動に影響する要因は、**会社の業績、景気、投資家の売買動向、社会情勢**などさまざまありますが、中でももっとも大きな要因となるのが、**会社の業績**でしょう。たとえば、会社の展開する事業が魅力的であったり、売り上げが上昇していたりすると、将来的に会社の成長が見込まれます。会社が成長すると利益を生み出しやすくなり、結果的に株主の配当や利益も大きくなるので、その会社の株を買いたい人が増え、株価が上昇していきます。株を買う基準は会社の価値に対して、株価が割安であるかどうか。よい企業なのに株価が安い場合、買い時となります。**会社の業績や経営状態などの分析を「ファンダメンタルズ分析」といい、株式投資の基本です。**

売買取引のしくみ



株価変動に影響する要因

個別要因

- ・ **会社の業績** (財務状況、将来性など)
- ・ M & A
- ・ 株式分割
- など

市場全体の要因

- ・ 経済的要因 (金利、景気など)
- ・ 社会的要因 (社会情勢、災害など)
- ・ 市場内部要因 (投資家の売買動向など)



株価の変動にもっとも影響があるのは、「**会社の業績**」。日ごろからニュースなどを確認しておきましょう

ローソク足のヒゲを見れば 相場の動きがわかる

POINT ▶ ある期間の高騰や下落が読み取れる

■ ヒゲは高値と安値を示している

22ページでも紹介しましたが、ローソク足の実体から伸びる線のことを「ヒゲ」といい、上から出る線を上ヒゲ（または上影）、下から出る線を下ヒゲ（または下影）と呼びます。

上ヒゲは、線のいちばん高い部分はその期間の高値（たかね）を示しています。一方、下ヒゲは、線のいちばん低い部分はその期間の安値（やすね）を示しています。

ヒゲが長いほど、その期間内で株価が大きく上昇または下降したことが一目でわかるということです。たとえば、陽線のローソク足の場合、終値と高値の差が大きいほど、上ヒゲは長くなります。

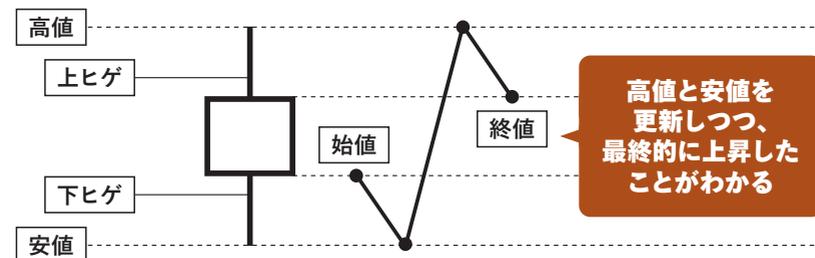
■ ヒゲはある期間の相場の動きがわかる

また、寄引同時線から上ヒゲや下ヒゲが長く伸びることもあります。その期間内に一時的な高騰や大きな下落を経て、相場が終わるころに株価がもとに戻っただけ、という見方になります。たくさんの売買取引がなされたため、案外「平和な日」でもなかったというわけです。一方、ヒゲのない寄引同時線は、株価がまったく動かなかったということになります。

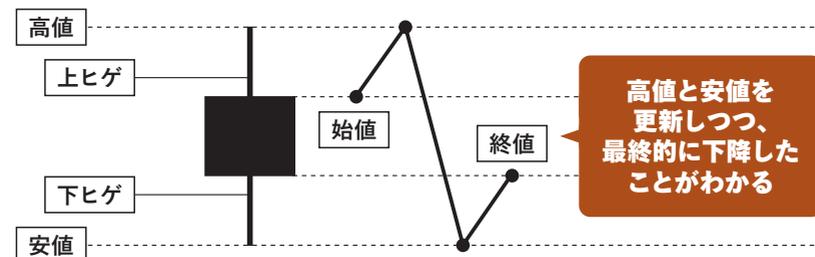
このように、ローソク足は実体部分の長さやヒゲの長さによって、相場の状況を示しています。なお、ローソク足の形にかかわる始値、終値、安値、高値の4つの値を四本値といいます。

ローソク足のヒゲ

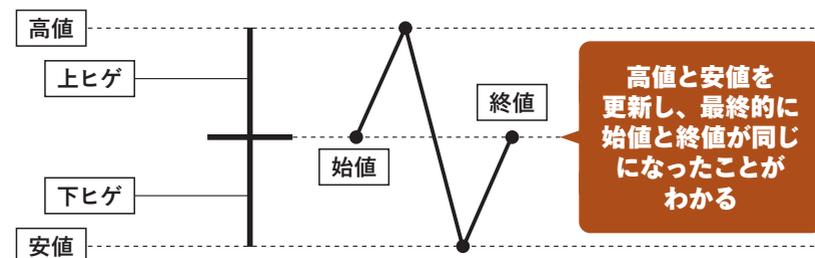
陽線の値動き



陰線の値動き



寄引同時線の値動き



実体が長い大陽線は相場が強いサイン

POINT ▶ ヒゲが短いほど強気であることを示している

■ 実体が長い大陽線は強気のサイン

ローソク足の実体が全体の大半を占めているほど長い陽線のことを「大陽線」といいます。上昇が続いている場面で出現することが多く、売りの勢いが弱まっており、今後も買いの勢いが強まることを示唆しています。さらに大陽線はヒゲの有無により、3つの種類に分けられます。

- ・丸坊主
実体が長くヒゲがない陽線を指します。上昇一辺倒で強気のサインです。
- ・大引け坊主
終値と高値が等しく、短い下ヒゲが出ている陽線を指します。上昇トレンドの途中で一時的な下降に転じるも、高値引けとなったことを表します。株価が上昇したまま大引けを迎えたことを示すため、翌営業日も株価の上昇する可能性が高い、強気のサインです。
- ・寄り付き坊主
始値と安値が等しく、短い上ヒゲが出ている陽線を指します。基本的には強気のサインです。しかし、天井圏で出現した場合はトレンドが反転する可能性があるため、注意しましょう。

実体の長さの目安は、通常の5倍以上の長さです。普段の値動きと比較して大きく値を上げたら、強気のサインと見てよいでしょう。

大陽線の種類

丸坊主



上昇に傾倒している強気のサイン

大引け坊主



翌営業日も上昇する可能性が高い、強気のサイン

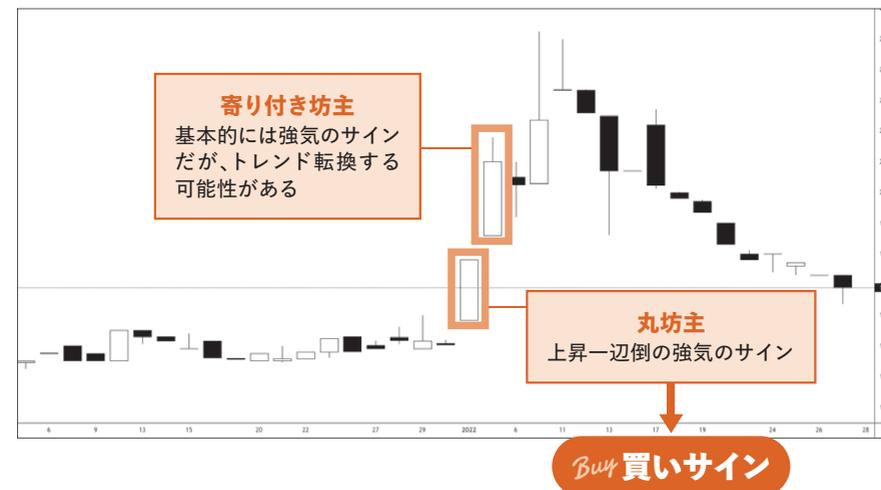
寄り付き坊主



基本的には強気のサイン。ただし、天井圏では反転を示唆する

チャート上の大陽線

〈Geolocation Technology (4018) 日足 2021年12月～2022年1月〉



実体が短い小陽線は 様子見姿勢の強さを示す

POINT ▶ 連続で出現すると大陽線へ変化する

ローソク足の実体とヒゲが短い陽線を「小陽線」といいます。

売りと買いが拮抗しつつ、若干買いが多かったことを示しています。そのため、上昇や下降の明確なサインが出ているわけではありませんが、天井圏で連続して出現すると、大陽線へと変化する可能性があります。

とくに、実体もヒゲも短いものをその形から「コマ」といい、様子見姿勢の強さを表します。相場が停滞している際に出現しやすいです。

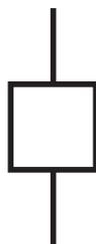
小陽線の種類

小陽線



売りと買いが拮抗しており、やや買いが多かったことを示すサイン

コマ



様子見姿勢の強さを表すサイン。相場が停滞しているときに現れる

天井圏で連続して出現すると大陽線になる可能性があります



実体が短い小陰線は 様子見姿勢の強さを示す

POINT ▶ 連続で出現すると大陰線へ変化する

ローソク足の実体とヒゲが短い陰線を「小陰線」といいます。

買いと売りが拮抗しつつ、売りが多い状態です。そのため、下降や上昇の明確なサインが出ているわけではありませんが、底値圏で連続して出現すると、大陰線へと変化する可能性があります。

とくに、実体もヒゲも短いものをその形から「コマ」といい、様子見姿勢の強さを表します。相場が停滞している際に出現しやすいです。

小陰線の種類

小陰線



売りと買いが拮抗しており、やや売りが多かったことを示すサイン

コマ



様子見姿勢の強さを表すサイン。相場が停滞しているときに現れる

底値圏で連続して出現すると大陰線になる可能性があります



包み足は トレンド転換のサイン

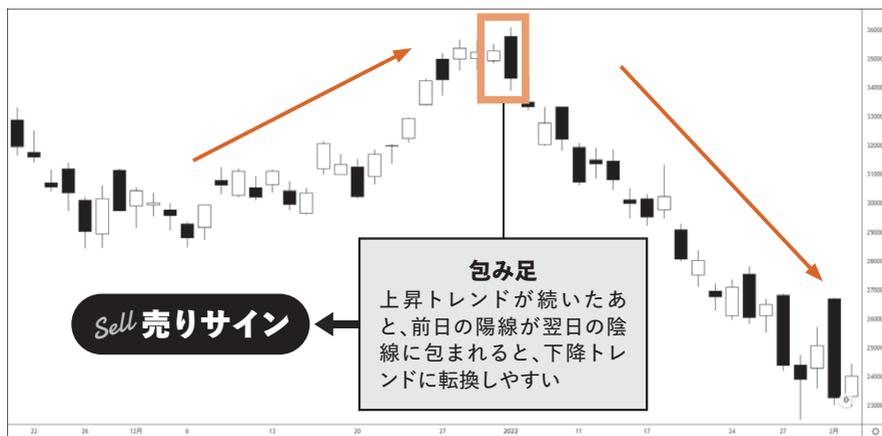
POINT > 2本目のローソク足の種類によってサインが異なる

ここからはローソク足を複数個組み合わせる、代表的なパターンを解説していきます。

1本目のローソク足の寄り付きから大引けまでの値幅を、2本目のローソク足が完全に包み込んでいる状態を「包み足」といいます。包み足は、トレンド転換を示すサインで、上昇トレンドが続いたあと、陽線・陰線の組み合わせで出現すると下降トレンドに転換しやすいので、売りサインとなります。また、下降トレンドが続いたあと、陰線・陽線の組み合わせで出現すると上昇トレンドに転換しやすいので、買いサインととらえましょう。

チャート上の包み足

〈レーザーテック(6920) 日足 2021年11月～2022年2月〉



はらみ線は トレンド転換のサイン

POINT > トレンドの最中に出現したら警戒する

40ページで紹介した包み足とは反対に、**1本目のローソク足の値幅が、2本目のローソク足を包み込む状態を「はらみ線」といいます。**1本目のローソク足がお母さんで、子どもをはらんでいるように見立てたことからその名が付けられました。

天井圏で陽線・陰線の組み合わせで出現すると、上昇の勢いが弱まっていることを示し、下降トレンドに転換しやすいので、売りサインを示します。また、底値圏で陰線・陽線の組み合わせで出現すると、下降の勢いが弱まっていることを示し、上昇トレンドに転換しやすいので買いサインを示します。

チャート上のはらみ線

〈武蔵野銀行(8336) 日足 2021年11月～2022年1月〉



チャートパターン分析で 株価の動向が予測できる

POINT > 株式投資はリスクを抑えてリターンを狙うもの

■ 値動きを予測するためのツール

26ページでローソク足にパターンがあると説明したように、チャートにもパターンが存在します。テクニカル分析において、チャートパターンは欠かせない要素の1つなので、覚えておきましょう。

チャートパターンとは具体的に、トレンドラインを結び、チャートの形状をパターン化したものです。「この形になったら、このような値動きをする確率が高い」というパターンがいくつもあり、売買ポイントを見極めるためのツールとなります。

パターン分析では、主に「トレンド転換」と「トレンド継続」を見極めることができます。

たとえば、チャートが山を3つ描いたら「三山」といって、そのあとの株価は下降しやすくなります（三山は58ページ参照）。そのため、株を保有している銘柄のチャートにおいて3つの山を描く局面になったら株を売る選択ができます。

このように、パターン分析して今後の値動きを予測できれば、手を出さない選択ができたり、そのあとの値動きに備えてポジション調整できたりします。つまり、**パターンを覚えることで株式投資は「一か八かのギャンブル」ではなく、「リスクを抑えてリターンを狙う」ことが可能となるのです**。当然、必ずしも予測が的中するわけではありませんが、きちんとした理由を持って投資することが今後の利幅を増やす基礎となるでしょう。

チャートパターンで値動きを予測できる

買いパターン



Buy 買いサイン

→ 谷を3つ描いたら上昇トレンドへの転換サインを示す

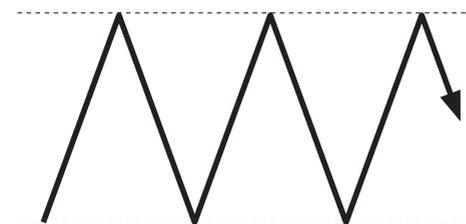
売りパターン



Sell 売りサイン

→ 山を3つ描いたら下降トレンドへの転換サインを示す

様子見パターン



様子見

→ レンジ相場はどちらのトレンドになるか予想が付かない



チャートパターンを覚えていれば、
ポジション調整の役に立ちます

窓を開ける三空は 相場が落ち着くサイン

POINT > トレンドの最終局面で発生しやすい

3回連続して窓を開けることを「三空（さんくう）」といいます。トレンドの最終局面で発生しやすく、相場の反転を示唆するパターンです。とくに、下降相場で4本の陰線すべてが窓を開けた状態を「三空叩き込み」といいます。買方の投げ売りがピークに達したことを表しており、投げ切ったあとは相場が反転することが多くなります。したがって、三空叩き込みは買いサインとなります。反対に、上昇相場で4本の陽線すべてが窓を開けた状態を「三空踏み上げ」といいます。株価が上がると利益確定をする投資家が増え、売り切ると相場が反転しやすくなることから売りサインとなります。

チャート上の三空

〈レーサム(8890) 日足 2021年11月～2022年2月〉



三兵は価格帯によって サインが変化する

POINT > 赤三兵は強気の相場で出現することが多い

3本のローソク足が窓を開けずに並んだ状態を「三兵（さんぺい）」といいます。ローソク足が陽線なら「赤三兵」、陰線なら「黒三兵」と呼びます。赤三兵は強気の相場で現れることが多いため、買いサインとなります。ただし、天井圏での出現や、3本目のローソク足に上ヒゲが出ていると、「赤三兵先詰まり」といわれ、上昇力の鈍化を示し、売りのサインとなります。黒三兵は、天井圏で出現すると強い売りサインを示すパターンです。ただし、底値圏での出現や、3本目のローソク足に下ヒゲが出ていると、「黒三兵先詰まり」といわれ、下降力の鈍化を示し、買いサインとなります。

チャート上の三兵

〈SE H&Iグループ(9478) 日足 2020年3月～6月〉



3本の移動平均線で投資家の動向を知る

POINT ▶ 短期・中期・長期の投資家の売買の動向を知る

移動平均線は3本表示する

100ページでパラメーターについて説明しましたが、移動平均線は複数本同時に表示することもできます。各証券会社のチャートでも3本表示が基本です。

移動平均線を3本表示する場合、それぞれの移動平均線の役割を短期・中期・長期というように、期間ごとにとらえると理解しやすくなります。具体的には5日SMAもしくは10日SMAが短期、25日SMAが中期、75日もしくは200日SMAが長期といった形です。**3本を同時に表示することは、短期・中期・長期それぞれの投資家の動向を知ることが目的になります。**

移動平均線で株価の動向を分析する

値動きというのは、デイトレード、スイングトレード、長期保有の売買にかかわらず、各期間の売買が「ローソク足」という1つの形として示されます。そのため、ローソク足単体を見ても、それぞれにどのような動きがあるか少しわかりづらくなっています。

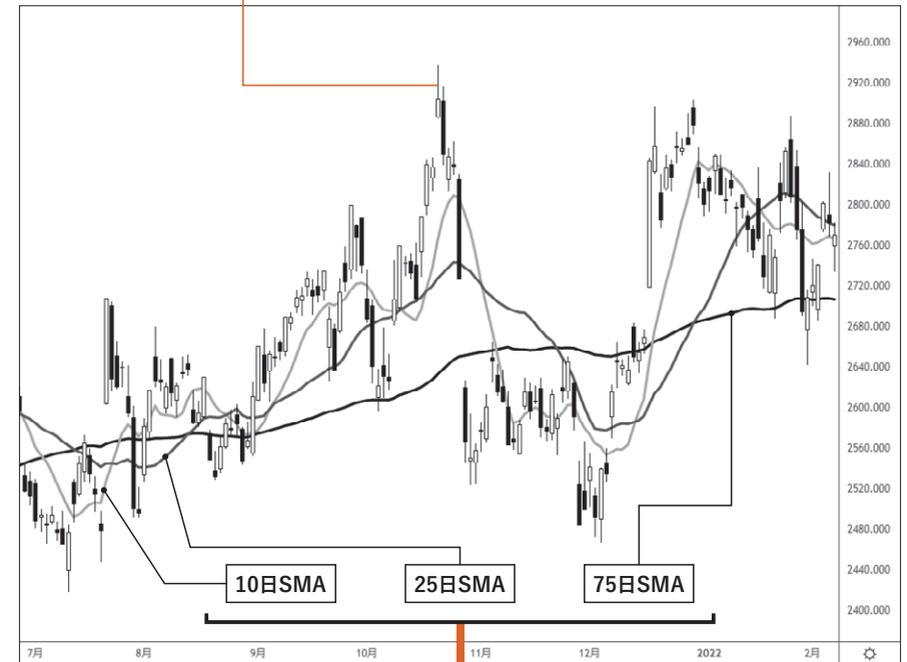
そこで、**株価の動向を分析するために優れているのが移動平均線なのです。**たとえば5日SMAは1週間のうちで売買された平均値を知ることができます。25日SMAであれば1カ月、75日SMAであれば3カ月というように、それぞれに短期・中期・長期と役割を振ることで、各期間の投資家が売っているのか買っているのかを視覚化することができるのです。

3本の移動平均線でさまざまな立場の投資家の動向を知る

〈キャノン(7751) 日足 2021年7月～2022年2月〉

ローソク足は「その日のような値動きがあったのか」のみがわかる

別の時間軸の動きは把握しづらい



10日SMA……短期投資家の売買の動向がわかる
25日SMA……中期投資家の売買の動向がわかる
75日SMA……長期投資家の売買の動向がわかる

株価の動向を分析することに優れている

パーフェクトオーダーとの 合わせ技を使った買い

POINT ▶ 移動平均線に近付いたローソク足が反発したら買いサイン

パーフェクトオーダーを活用する

複数の移動平均線とグランビルの法則の組み合わせという考え方であれば、「パーフェクトオーダー」にも応用できます。

パーフェクトオーダーについて、少しおさらいしましょう。複数の移動平均線がパラメーターの大きい順に下から並び、ローソク足が移動平均線の上で推移している状態を「上向きパーフェクトオーダー」といいます。

パーフェクトオーダーにグランビルの法則を加える

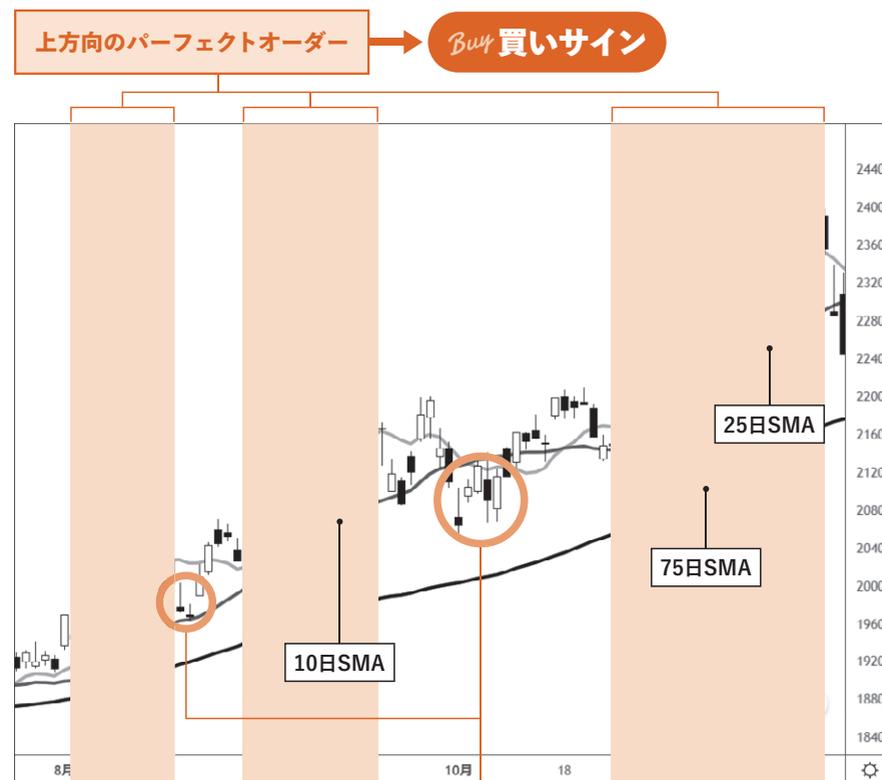
上向きにパーフェクトオーダーが発生している場合、上昇トレンドがかなり強い状態なので、「買いが有利な（売らない）場面」と判断できます。

ただ、パーフェクトオーダーだけでは、具体的にどの場面で売買するかという細かい判断が難しいです。ここにグランビルの法則を加えることで利益を最大化できるポイントを探しやすくなるのです。パーフェクトオーダーとグランビルの法則を組み合わせる場合、トレンドに沿った売買となるため、基本的には売買パターン①、②、③が中心となります。

右図は上昇トレンドの中のパーフェクトオーダーを示していますが、一度移動平均線に近付いたローソク足が、反発して上昇していくポイントを見つけることができれば、ある程度高いところで買ってしまっても、**パーフェクトオーダーが続く限り、損失を最小限に抑えながら、利益を狙っていくことができるのです。**

反発して上昇していくポイントを見る

〈オリックス(8591) 日足 2021年7月～11月〉



25日SMAの買いパターン②かつ
75日SMAの買いパターン③

Buy 買いサイン



パーフェクトオーダーが続きながら、グランビルの買いパターンも出ているので、利益が狙いやすいです

もみ合いの上放れ発生時の 売買ポイントを見極める

〈大阪ソーダ(4046) 日足 2021年8月～2022年2月〉



下降転換を示す チャートパターンを探す

〈コナラ(4176) 日足 2021年7月～2022年2月〉

